

IV. 普及・公開活動の記録

平成29年度 埋蔵文化財展

1 目的と概要

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開するとともに、歴史講座や体験プログラムなど多彩な企画を通じて、県民の埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護意識の向上を図ることを目的とした。

2017年度は、春に愛知県埋蔵文化財調査センターと共催し、新出土品展と重要文化財の特別公開を行った。秋には愛知県埋蔵文化財調査センター2階の常設展の展示物の入れ替えを行った。展示物の入れ替えに伴い、展示解説やワークショップ、バックヤードツアーなどの関連行事を行った。また4回の連続歴史講座も実施した。12月には、名古屋市博物館において、当センター・名古屋市博物館の2者が主催する考古学セミナー「あいちの考古学2017」を行った。他に公益財団愛知県教育・スポーツ振興財団の関連施設である愛知県青年の家において講座をおこなった。

2 春の埋蔵文化財展「やとみ新発見展！」

1) 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

2) 会期

平成29年4月1日(土)から4月16日(日)

3) 開催趣旨

弥富市にある「愛知県埋蔵文化財調査センター」にて、「やとみ新発見展(しんはっけんでん)！」と題して、昨年度の発掘調査成果について、展示解説を実施。入館無料。

4) 内容

○埋文桜ニュース発行

○展示

2階 資料管理閲覧室

「考古楽さんぽ」展

2階 収蔵庫C

「新出土品展2017」

「土器クロニクル」展

1階 ロビー 2階 廊下 パネル展示

配布資料：埋文桜ニュース(遺跡の概要説明)

ペーパークラフト(パレス土器)

遺跡の紹介しおり

2017年		天気	小計
4月1日(土)	縁日	雨のち曇	277
4月2日(日)	縁日	晴れ	605
4月3日(月)		晴れ	8
4月4日(火)		晴れ	8
4月5日(水)		晴れ	8
4月6日(木)		曇りのち雨	217
4月7日(金)	ウォーキング	曇り	16
4月8日(土)	休館		
4月9日(日)	休館		
4月10日(月)		曇り	12
4月11日(火)		雨	3
4月12日(水)		晴れ	27
4月13日(木)		晴れ	2
4月14日(金)		晴れ	10
4月15日(土)	蓮如祭・ウォーキング	雨のち晴れ	79
4月16日(日)	蓮如祭	晴れ	6
合計			1,278

▲春の埋文展 入館者数

5) 考古楽縁日

埋蔵文化財展の開催初日2日間は、弥富市社会教育センターで「やとみ春まつり」が開催されるのに合わせ、埋蔵文化財および当センターの活動を周知する目的で「考古楽市2017」を実施。

○キネクトゲーム

*参加者数：882名(2日間のべ)

6) その他

外部より開館していることがわかるよう、布製の垂れ幕や、ノボリを多数設置。また「やとみ春まつり」会場にて、チラシの配布を行う。期間中、愛知県埋蔵文化財調査センターが国指定重要文化財である「朝日遺跡」の遺物を展示。また縁日開催日には調査センターが輪投げと火起こしのイベントを開催した。

*全期間中の来館者：1,278名

3 秋の埋蔵文化財展

常設展示を行っていた調査センター2階の資料管理閲覧室と収蔵庫Cの展示を、刷新し、関連事業として「連続歴史講座」、「バックヤードツアーと考古学体験」、「展示解説とワークショップ(埋文市民大学)」を実施した。

1) 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階

埋文桜ニュース

17年度4月1日発行

はじめに

秋は盛りだくさんな内容です。まず、弥富市の愛知県埋蔵文化財調査センターでは「秋の埋蔵文化財展」を開催し、展示内容をリニューアルします。当センターの業務を皆様にご理解いただくための「バックヤードツアー」と考古学体験や、収蔵庫Cの展示刷新などの企画も実施いたします。好評をいただきました「連続歴史講座」も計画しております。本年度のテーマは「縄文・弥生時代の食文化」です。さらに愛知県内を中心とした考古学に関連する人たちが集まり、最新情報を交換するイベント「考古学セミナーあいちの考古学2017」を名古屋市博物館で開催します。

冬には愛知県青年の家で、当センターが報告するイベント「築かれた岡崎の遺跡」を開催します。

以上の他に、当センターでは本年度「連続歴史講座」に努めます。皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

平成29年度の調査予定遺跡

4498-0017

愛知県埋蔵文化財調査センター

〒466-0017 愛知県弥富市西町4丁目1番1号

電話：0567-42-4163

ファックス：0567-42-3054

ホームページ：http://www.mibun.com/

メールアドレス：mibun@mibun.com

歴史講座 今秋は縄文・弥生時代の食文化

縄文・弥生時代の食文化

考古学セミナー

2017年5月の新発見

新設案 発見版4

▲「埋文桜ニュース」

2) 内容:

收藏庫C:展示 1

「食と文化の考古学 煮炊きの道具の変遷」

資料管理閱覽室:展示2

「石の道具の歴史」

3) 会期：平成29 年10 月7 日(土)～
11月4日(土)

4) 資料配布：展示会と関連行事の告知のため、県内外の複数箇所にて資料配布を行った。県内市町村教育委員会、図書館、関連博物館・資料館、考古学関連大学、近隣住民への回覧板配布。上記の配布箇所に加え、今年度より新たに、近隣

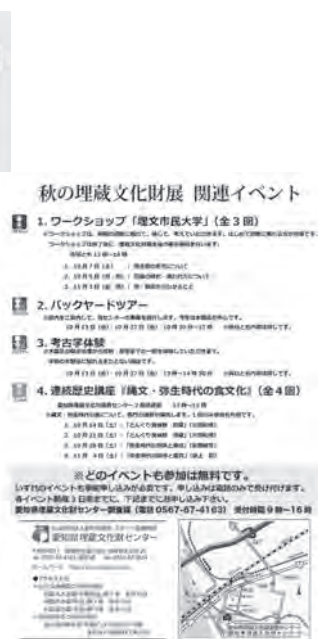
中学校、県内高等学校、近隣に所在する県立施設（水産試験場や土地改良区など）や駅、病院、銀行、商工会、コミュニティーバスなどへのポスター掲示を依頼した。新たな配布先を増やした結果、新たな来館者が増えたことが、アンケート結果から推測できた。

2017年	秋の埋文展入館者数	
	イベント	参加者数
10月7日 (土)	ワークショップ1 (12名)	26
10月8日 (日)		
10月9日 (月)	ワークショップ2 (7名)	18
10月10日 (火)		4
10月11日 (水)		11
10月12日 (木)		3
10月13日 (金)	バックヤードツアー (12名)・考古学体験	48
10月14日 (土)	連続歴史講座1 (13名)	37
10月15日 (日)		
10月16日 (月)		8
10月17日 (火)		1
10月18日 (水)		3
10月19日 (木)		6
10月20日 (金)		10
10月21日 (土)	連続歴史講座2 (18名)	35
10月22日 (日)		
10月23日 (月)		3
10月24日 (火)		0
10月25日 (水)		7
10月26日 (木)		24
10月27日 (金)	バックヤードツアー (7名)・考古学体験	28
10月28日 (土)	連続歴史講座3 (17名)	29
10月29日 (日)		
10月30日 (月)		3
10月31日 (火)		8
11月1日 (水)		7
11月2日 (木)		5
11月3日 (金)	ワークショップ3 (13名)	31
11月4日 (土)	連続歴史講座4 (15名)	56
		41

▲秋の埋文展 入館者数

周知の手段	居住地	性別	年齢	来館回数
駅ポスター	弥富市	女性	50-60	初めて
駅ポスター	三重県	男性	50-60	初めて
駅ポスター	大垣市		50-60	初めて
駅ポスター	桑名市	男性	30-40	初めて
チラシ	知多市	男性	70-	2回目
チラシ	弥富市	女性	50-60	初めて
チラシ	名古屋市	男性	50-60	初めて
チラシ	一宮市	男性	50-60	2回目
チラシ	可見市	男性	50-60	初めて
チラシ	滋賀県	男性	50-60	初めて
チラシ	台湾	女性	30-40	初めて
チラシ	飛鳥村	女性	10-20	初めて
バス内公告	弥富市		70-	初めて
HP	弥富市	男性	50-60	初めて
HP	名古屋市	男性	50-60	初めて
HP	鈴鹿市	男性	50-60	3回以上
HP	三重県	女性	30-40	3回以上
HP	豊明市	男性	10-20	3回以上
メール	名古屋市	男性	50-60	2回目
メール	みよし市	女性	10-20	初めて
新聞	一宮市		50-60	2回目
新聞	愛西市	男性	50-60	初めて
職員の家内	名古屋市		50-60	3回以上
たまたま	岡崎市	男性	30-40	3回以上
その他	木曽町	男性	30-40	2回目
友人	名古屋市	女性	30-40	初めて
親から	弥富市	女性	10-20	初めて
父親	名古屋市	女性	10-20	初めて

▲秋の埋文展 アンケート結果



▲秋の埋文展 広告チラシ

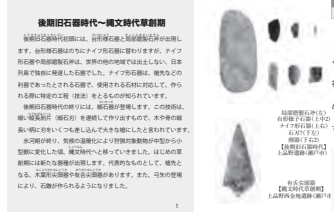


ヒトは、さまざまな環境で道具を作り出し、活動の幅を広げてきました。道具は、当時利用できたりなかった材料から作られていました。その中で身近な存在として、石が利用されました。

ヒトは、石を加工して、人間的な活動に役立てて、長く使ってきました。この間、地域や時代によりさまざまな種類の石の道具が作られてきました。このことから、特定の石と文化の密な関係とを築いてきたことが、よくしるわれています。

石の道具が、考古学上で扱われる場合、このらは「石器」と呼ばれます。この「石器」というのは、一般的に、石製は「特定人類の活動の場面にのみ使われていたもの」を指し、「石製品」は装飾品および環境的に必要に応じて作られることが多いです。

本展示では、これらの「道具」を、要約下出土した資料を用いて、後期旧石器時代から連带的に展開しています。



今から1万5千年前頃、日本列島で煮炊が作られるようになりました。縄文時代の始まりです。

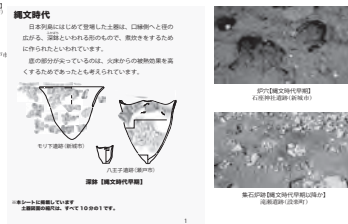
土器のほかに、深鉢という煮炊の道具があらわれました。土器は、ドングリのアザキのために出現したといわれています。

土器・土製の土器は、それによって生まれました。水を沸かして、煮たり焼いたりして調理方法が初めて可能となり、食料調理学は飛躍的に広がったと考えられます。

常陸時代以降、現代にさまでるまで、煮炊の道具である鍋・釜の類は、調理員として常に重要な位置を占めていました。

今日、私たちの生活には切っても切り離せないものや食べ物の味。

① 調理、調理方法が文化の中心となる火の調理の道具にも、煮炊の道具の重要性、歴史的に展示しています。煮炊が行われたこと、この活動がないとできないようなものや食べ物の味を、感じていただくことができます。



▲展示解説パンフレット

連続歴史講座 「縄文・弥生の食文化」

趣旨：秋の埋蔵文化財展に合わせた講座で、発掘調査により発見された資料から、狩猟・採集・耕作から調理に至る分野についての研究成果を一般の方向けではあるが、興味・関心を広げ、より深い理解を目指す。

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階 研修室

内容：縄文から弥生にかけての食文化に関する考古学講座で、縄文時代の植物食について2回、弥生時代の動物利用について1回、弥生時代の農耕耕作について1回の計4回開催した。また講座形式が主体であるが、毎回の講座後半には、どんぐりを用いた体験や遺跡からの出土遺物の観察、復元道具の使用体験を行い、併せて講座担当者からの具体的な解説も行った。

今回の連続歴史講座では、縄文時代の植物食の第1回と第2回にどんぐりの粉碎処理(第1回)と粉碎したどんぐり粉から豆腐の作成(第2回)を行った。そのため、参加は事前の申し込み制とし、埋蔵文化財展チラシ配布、ホームページ公開などによる広報を行い、主に電話による受付をした。時間は毎回土曜日の午後1時から午後3時で、参加費は無料で行った。

第1回	10月14日(土)	「どんぐり食体験 前編」	川添 和暁
第2回	10月21日(土)	「どんぐり食体験 後編」	川添 和暁
第3回	10月28日(土)	「弥生時代の狩猟と漁撈」	宮腰 健司
第4回	11月4日(土)	「弥生時代の稲作と農具」	樋上 昇

参加者数

第1回 12名 第2回 18名 第3回 16名 第4回 15名 のべ 60名



▲10月14日



▲10月28日



▲10月21日



▲11月4日

バックヤードツアーと考古学体験

目的：バックヤードツアーや考古学の体験イベントを通じて、当センターの事業を紹介する。

期間：10月13日（金）、10月27日（金）

*両日とも内容は同じ。参加費無料。事前登録制。当日参加可。

受付：バックヤードツアー 10時30分 考古学体験 13時

会場：愛知県埋蔵文化財調査センター

内容：バックヤードツアー、考古学体験ともに木製品に関する業務を紹介。鬼頭剛と酒井俊彦がツアー・ガイドを担当。

○バックヤードツアー：出土した木製品がセンターに運ばれてから保存処理が施され（保存科学処理室）、特別収蔵庫に保管されるまでの作業工程を紹介。後半は樋上昇による木製品の解説。27日（金）にはクローバーTVの取材があり、ツアーの様子が放映された。

○考古学体験：前半は堀木真美子による科学分析室にて顕微鏡を使用した樹種同定の解説。後半はポリエチレン・グリコール（PEG）含浸槽から保存処理が完了した木製品の取り出しと、PEGの拭き取り作業の体験。

参加者数：

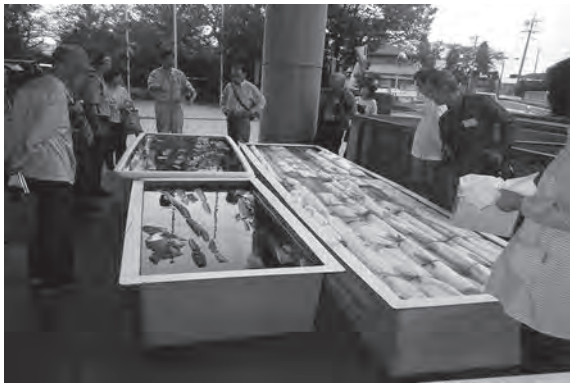
○バックヤードツアー

10月13日（金）-12名 10月27日（金）-7名 のべ参加者数 19名

○考古学体験

10月13日（金）-14名 10月27日（金）-13名 のべ参加者数 27名

備考：バックヤードツアーは、日常の整理事業などを見学することから、平日開催とした。参加については、これまで申込不要としていたが、今年度については他の事業との関係から、事前申込が必要とした。このことにより参加者数が減少すると思われたが、予想に反し、ほぼ10名以上の方々の参加があった。中には、参加のために勤務先での時間休を取ったという参加者もいた。事前申込制は、参加者も開催側も「開催の約束」という点で有効であった。また、今回は木製品をテーマとしたイベントであったが、参加者の中には土器類の体験・解説を強く希望される方もおり、急遽整理事業エリアで解説を行った。



▲木製品水槽の見学



▲特別収蔵庫の見学



▲樹種同定の解説



▲木製品PEGの拭き取り

ワークショップ「埋文市民大学」

1 埋文市民大学開校の目的

当センターでは、これまでも多種の普及事業を行なってきた実績があり、着実に考古学および埋蔵文化財について関心を持って頂くように努めてきた。体験型講座とされるワークショップも同様であり、埋蔵文化財事業の理解に寄与してきた。

ただし、これまでの普及事業では、講師と受講者との関係が明確で、講師が教授するものがほとんどであったと言える。

今回のワークショップの目的は、考古学における研究考察を体験するものである。実物の資料に触れて、そこからどのような情報を引き出すのかを自由に討論することを目指した。

2 埋文市民大学の内容

今年度は計3回を以下の内容で実施した。

1回目 10月7日(土)「焼き物について」

目標：焼き物の時代順を考える

(焼き方・胎土・作り方・形・文様などで、時代により変化していることを実感する。)

2回目 10月9日(月・祝)「石器について」

目標：石器の時代と使われ方考える

(器種・形・作り方・使われ方などで、時代により変化していることを実感する。)

3回目 11月3日(金・祝)「骨・貝殻について」

目標：当日の食料事情を考える

(遺跡周囲がどのような環境の場所で、かつどのようなものを重点的に採取したかを実感する。)

1回2時間程度で、次第は以下の通りである。

1. 職員紹介とワークショップの趣旨、遺物の取り扱いなど最低限の注意事項の説明。
参加者のグループ分け。【10分程度】

1グループ参加者4人程度にする。

2. まずは、何も誘導しない状態で、参加者独自で観察・考察を行う。【20分程度】

しばらく様子を見て、適切な頃合いに職員が観察ポイントを示す。

3. 観察ポイントの指摘を受けて、さらに参加者が観察・考察をして、その結果をB紙にまとめる。
【40分程度】

どうしてそのような結果になったのかの理由をできるだけ詳細に語っていただく。

4. 分析結果をグループごとに発表する。【30分程度】

5. 最後に、職員側から考古学的事実を示す。【20分程度】

3 埋文市民大学の成果と意義

参加者は、考古学的知識の問わずに参加しており、かつ限られた情報のみで観察し、自由に議論をして頂くことになる。従って、発表内容について理由と結論が論理的につながっていれば、今回のワークショップの第一の目的が達成されている。参加者が導き出した発表内容について、考古学的事実と異なっているとしても不正解にはならない。参加者においてはモノの観察からの検討という、能動的な結論を得る達成感がある。また、主催者側からすると、限られた情報のみでの論理的に導き出された発表には、研究上の参考になる意見を頂くこともある。一方で、会の最後に考古学的事実を伝えることは忘れてはならず、発表内容の差異を参加者とともに共有することが重要となるのである。



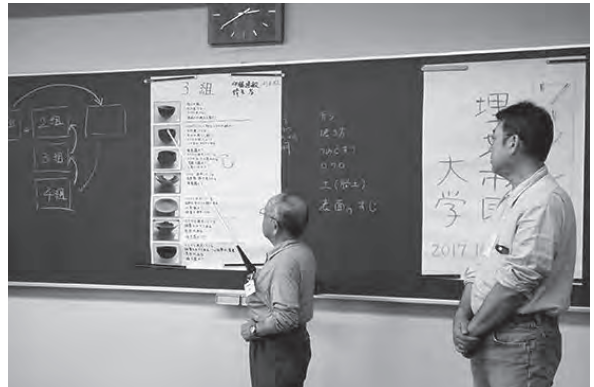
▲焼き物について 観察風景1



▲焼き物について 観察風景2



▲焼き物について 発表風景1



▲焼き物について 発表風景2



▲石器について 観察風景1



▲石器について 観察風景2



▲石器について 発表準備



▲石器について 発表風景

第6回 考古学セミナー「あいちの考古学2017」の記録

第6回考古学セミナー「あいちの考古学2017」の記録

概要：

考古学セミナー「あいちの考古学」は、愛知県内および近隣地域で活動する県・市町村教育委員会、公益財団法人、大学、特定非営利活動法人（NPO）、研究グループ、関連企業などが一堂に会して遺跡調査と考古学に関係する研究成果を広く一般に公開し情報を共有することを目的に、平成24年度より開催している。名古屋市博物館が会場となって4年目となる今回も継続参加者を含む多数の来場者で賑わった。

主催：名古屋市博物館・愛知県埋蔵文化財センター

日時：平成29年12月2日（土）午後1時から午後4時

12月3日（日）午前10時から午後4時

会場：名古屋市博物館 講堂・展示説明室

参加者数：12月2日（土）162名、12月3日（日）232名、合計394名

出展団体・個人：プレゼンテーション11、ポスターセッション16（エントリー制）

講演：梶原義実（名古屋大学大学院人文学研究科准教授）

セッション：木村有作（名古屋市教育委員会）ほか3名

配布資料：『あいちの考古学2017』450部（無償配布）

◎12月2日（土）午後1時から午後4時

<プレゼンテーション>

13:10～13:30「愛知県新城市萩平遺跡A地点隣接地第5次調査の成果」社本有弥（愛知学院大学大学院）

13:30～13:50「縄文時代の長良川中・上流域における下呂石利用」山内良祐（名古屋大学大学院）

13:50～14:10「古城山窯跡第1次発掘調査報告」伊藤真央（愛知学院大学大学院）

14:40～15:00「平成28年度 畑間遺跡発掘調査成果報告」安津由香里（東海市教育委員会）

15:00～15:20「岐阜県富加町夕田地区前方後円形墳墓群の調査について」島田崇正（富加町教育委員会）

15:20～15:40「安城市桜井城の発掘調査成果」石井香代子（安城市教育委員会）

15:40～16:00「犬山焼の世界観」井上あゆこ（犬山市文化史料館）

◎12月3日（日）午前10時から午後4時

<プレゼンテーション>

10:10～10:30「寝屋川市・高宮廃寺の宝物」白樫 淳（株式会社アコード）

10:30～10:50「栗栖プロジェクト成果報告～犬山市栗栖における地域協働の分布調査～」

大塚友恵（NPO 法人ニワ里ねっと）

11:10～11:30「北野田B遺跡の発掘調査成果報告」尾崎綾亮（愛知県埋蔵文化財調査センター）

11:30～11:50「国史跡久留倍官衙遺跡（古代の朝明郡衙）の史跡整備」清水政宏（四日市市教育委員会）

<講演>

13:00～14:00「古代寺院の成立と地域社会」梶原義実（名古屋大学）

<セッション>

14:00～14:10 趣旨説明 永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）

14:10～14:30 基調報告1「尾張元興寺とその景観」服部哲也（NPO 法人ニワ里ねっと）

14:30～14:50 基調報告2「熱田台地の古代集落遺跡」木村有作（名古屋市教育委員会）

14:50～15:30 パネルディスカッション

<ポスターセッション・出版物案内> (12月2日・3日開催)

- (1) 「平成 29 年度 設楽地区の調査」愛知県埋蔵文化財センター
- (2) 「蒲郡市平古古墳・竹谷城古墳出土遺物の科学分析」松田 繁（蒲郡市博物館）ほか
- (3) 「地方における終末期古墳の墓域と周辺環境」植木萌（名古屋大学）
- (4) 「平成 28 年度畑間遺跡発掘調査成果報告」安津由香里（東海市教育委員会）
- (5) 「尾北窯出土須恵器の調査」大西 遼（愛知県陶磁美術館）
- (6) 「名古屋市内の民間発掘調査事例について」吉村 晶（株式会社イビソク）
- (7) 「遺物の分析調査—考古学・保存科学からの事例紹介—」須山貴史（株式会社イビソク）
- (8) 「遺物の分析調査—各種分析手法とその活用—」竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）
- (9) 「興道寺廃寺の発掘調査成果」松葉竜司（福井県美浜町教育委員会）
- (10) 「鈴鹿市国分町所在の三寺院について」吉田真由美（鈴鹿市考古博物館）
- (11) 「犬山焼の世界観—犬山焼と丹波焼・三田焼」
犬山焼ミュージアム（青木修 井上あゆこ 佐久間真子 中野耕司 鈴木智恵）
- (12) 「国史跡 久留倍官衙遺跡（古代の朝明郡衙）の史跡整備」清水政宏（四日市市教育委員会）
- (13) 「寝屋川市 高宮廃寺の宝物」白樫 淳（株式会社アコード）
- (14) 「近代庭園の調査と活用～旧林家住宅庭園の事例」久保禎子（一宮市尾西歴史民俗資料館）
- (15) 「栗栖プロジェクト成果報告～犬山市栗栖における地域協働の分布調査～」
大塚友恵（NPO 法人ニワ里ねっと）
- (16) 「森浩一文庫について」銅坂有紗（春日井市教育委員会）
- (17) 考古学フォーラム「考古学フォーラムのご案内」
- (18) 豊田市文化財課市史編さん室『新修 豊田市史』のご案内
- (19) 愛知県 県史編さん室『愛知県史』のご案内



▲講堂



▲ポスターセッション会場



▲ポスターセッション



▲設楽ダム関連遺跡の展示

